新竹地区憲兵隊
（重砲兵第十二聯隊配屈憲兵の部）　部隊

年月日	概要
明二八　五	編成沿革及行動概要
四四	編成（台湾第十五憲兵隊）
昭二〇　九　六	澎湖島憲兵分隊に改正
一一　二〇	澎湖島地区憲兵隊に編成替
一七　五　二八	重砲兵第十二聯隊に配屈
二〇　三　一六	台湾憲兵隊、澎湖島憲兵分隊
九　六	台湾憲兵隊司令部、台南憲兵隊、澎湖島憲兵分隊
二　二〇	台湾憲兵隊司令部、台南地区憲兵隊、澎湖島憲兵分隊
九　六	台湾憲兵隊司令部、澎湖島地区憲兵隊
二一　二〇	台湾憲兵隊司令部
	重砲兵第十二聯隊配屈憲兵部、澎湖島に在りて防衛軍秩維持治安維持に任す
九　六	地区憲兵隊編成、日軍律秩維持分隊一、分遣隊四を各地区に派遣
二一　二〇	重砲兵第十二聯隊に配屈四地区に憲兵隊派遣日軍々秩維持

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二一	復員概況及残置部隊の状況
三 一八	部隊は被配属部隊（重砲兵第十二聯隊）と共に澎湖島馬公港出発乗船地高雄に集結二十より七日間乗船地高雄港岸壁に於て復員船待機
二六	被配属部隊と別行動となり高雄港出発
四 五	広島県大竹港上陸
	復員完結
	残置部隊なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

台湾憲兵隊台南地区憲兵隊

年月日	概要
	出港地、上陸地
	出港地　台湾高雄（昭和二十一年四月九日）
	上陸地　名古屋　（昭和二十一年四月十四日）
	部隊終戦前後の状況
	終戦前は台南憲兵隊として高雄、澎湖島　台南の三ヶ分隊に分ち主として防諜、情報収集及治安の維持に任じありたり
	台参動第一四七〇号に依り台湾憲兵隊編成下令せらるるや当地区隊は約二千名の編成を完結し、北部は「斗六」より南部は「二層紅溪」に亘る地域に対し、本部機動隊その他五ヶの憲兵分遣隊に分割し、台南地区の治安維持及日本軍隊の軍紀、風紀の取締に任ず
昭二〇　九　六	中国憲兵第四団進駐当地区憲兵隊の接収を開始し
二〇　一一　二〇	異状なく完了す
一二　二七	中国軍進駐するや約二千名の憲兵は八百八十一名の武装憲兵を残置し、其の他は夫々原隊に復帰す（原隊復帰　昭和二十一年十二月十八日開始　二十五日完了）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	拳銃を借用（仮借用）したる武装憲兵八八一名は別表の如く各部隊に配
	属し日本軍自隊の軍風紀の取締に任ず（別表略）
	当時台南地区憲兵隊本部は
一二 二五	第十二師団司令部憲兵部に於て業務を統行す
	台湾地区憲兵隊長　第十二師団司令部憲兵長
	陸軍憲兵中佐　加藤清一
	台南地区憲兵隊副官　第十二師団司令部憲兵部附
	陸軍憲兵中尉　古賀信男
二一 一初旬	台湾軍内地還送を命ぜらるるや高雄地区憲兵隊より三十七名を当地区隊
	に編入し第十二師団司令部は高雄乗船地司令部の業務を開始せるを以て
	憲兵は荷物検査憲兵として軍隊及居留民の荷物検査に又直轄憲兵として
	乗船地一帯の取締警戒に任じたるも
四八	其の任務を終了し帰国す
四六	当地憲兵隊長陸軍憲兵中佐　加藤清一は戦犯容疑者として台北中国警備
	総司令部に抑留せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

高雄地区憲兵隊

年月日	概要
	編成行動の概要
昭二〇・九・六	高雄地区憲兵隊は主として終戦後の治安維持の爲台湾軍管区司令官の命に依り第五十師団及第百旅団の人員約二三〇〇名を抽出し高雄方面憲兵分（分遣）隊を基幹として臨時編成せられたるものにして自動車三〇輌馬二一七頭、重機六の他に小銃拳銃等の保有台湾憲兵隊司令官に隷属し部隊接収完了迄軍事警察及高雄州の治安維持に任し其の後中国側の命に基き地区隊の保有人員を
二一一上旬	六九四名に減少し他は臨時編成前の所属部隊に復帰せしめ爾後地区憲兵隊は其の保有人員全部を第五十師団、第百旅団、及高雄方面海軍部隊に配属し日本軍の自隊の軍紀風紀の維持及自治警戒に任せしめたり
	復員状況及残置部隊の概況
	高雄地区憲兵隊（二三〇〇名）保有の兵器、馬匹及需品等部隊装備諸品並個人携帯許可の被服及一部糧秣及之等材料用諸品は総て一月上旬迄迄中国側に接収せられ入員は上記の如く六九四名減少後更に居留民輸送業

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

務及疾患等の爲七三名を他部隊に転属せる以外の人員は被配属部隊と共に行動をせしめたり
而して地区隊長の内地帰還迄に其の大部は帰国し召集解除（除隊）と成りたるも未だ台湾に残留する人員に海軍部隊配属の将校七名、下士官兵一六四名左り
而して該人員は被配属部隊と共に進め帰国の予定なり但し将校三名、兵二名は居留民輸送完了迄該業務の爲残留の筈

二一　三　一一
三　一六

高雄出港
大竹上陸復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

花蓮港地区憲兵隊

年月日	概要
昭二〇 一二 一〇	部隊の状況 花蓮港市に於て本来の任務に邁進しあり 地方治安略に安定し部隊亦内地帰還の見通しつきたるにより本隊は命に依り解散し転科し来たりし者は殆ど原隊に復帰し残部を以て独立混成第一〇二旅団憲兵部及同配属憲兵隊、船舶工兵第二十八聯隊配属憲兵隊第四十二航空地区司令部配属憲兵隊を編成され爾後各隊は各配属部隊と行動を共にせり

(4.0.2)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

花連港地区憲兵隊
第四二航空地区司令部配屬憲兵隊

年月日	概況
	部隊の情況 終戦後花連港地区憲兵隊解散し其の一部を以て花連港地区該部隊の取締の爲本隊を編成さる 当時該部隊は現地自活の態勢にて分散しありたるにつき本隊亦本部を花連港に置き分遣所三ケ所を設け取締りに任じたるも何も左く該部隊は帰還準備のための花連港市に集結せるにつき本隊亦花連港に集結前任務を続行せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

台東地区憲兵隊

年月日	概要
	部隊の状況
	終戦前
	台湾南部に於て台東庁内の治安維持に任じ熾烈なる敵機の空襲下　東
	滅戦斗及挺身奇襲戦斗に演練す
	終戦後
	終戦に伴い部隊は同地区の治安維持に任じ製糖工場及庁内各地の道路及
	街内復旧作業に従事す
昭二一一二	蘇澳地区に集結す
二二二	内地帰還のため基隆に集結
二二三	より数次に分れ主として鹿児島に上陸す
	編成以降の部隊の行動経過の概要
二〇八一五	終戦と同時に臨時編成せるものにして終戦後の日本軍々人軍属の取締及
	在台日本居留民の治安維持に任ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第九師団通信隊

年月日	概要
	残務整理者
	部隊の状況（終戦前后）具体的
	部隊は新竹洲の防衛に任じ　当部隊は師団隷下部隊間の有無線連絡に任ず
	終戦後現地自活態勢に入り一部を以て、新竹市内の復旧作業に協力すると共に帰還輸送迄の食糧自給を確保す
昭一九　六　一七	師団司令部に於て取纏め報告済にて現在不明
一二　二八	動員下令沖縄島に転進し島尻地区の防衛に任じ
二一　一　一九	台湾に転進し新竹洲の防衛に任ず
	鹿児島大陸復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第二十四連隊

年月日	概要
	部隊の状況 終戦前 台湾南部に於て第十二師団防禦正面中鳳山地区隊となり高雄州鳳山郡下（林園庄、大寮庄、小港庄）に於て防禦配備に就き主として敵機動部隊の上陸に備えつつ築城施設強化を計ると共に熾烈なる敵の空襲下水際頑滅戦闘及挺身奇襲戦闘の演練す 終戦後 終戦伴い部隊主力依然鳳山郡下に在りて、台湾製糖会社及附近官有地並私有地を借用しつつ自活の為農耕に従事す 一部兵力（約一ケ中隊）を基隆炭坑に派遣し出炭に協力高雄及旗山兵器廠並鳳山奉遣兵器集積所に各一ケ小隊の警備兵力を差出し該所の警備に任ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一九 一二 二〇	編成以降部隊の行動経過の概要 満州国東満統省東寧県老黒山に於て軍令陸甲第一五九号に依り編成を完結し
二〇 一 一〇	第三軍の編組より除かれ、第十方面軍の戦闘序列に編入せられ、台湾防衛の為転用せらる
一 二五	基隆上陸爾後台湾州嘉義市（二月十日迄）及高雄州鳳山郡下に於て防衛に任じ終戦に至る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第四十六連隊

年月日	概要
	編成以後部隊の行動経過の概要
昭一九 一二 二〇	満州東寧に於て軍令陸甲第一五九号に依り編成を完結し、台湾防衛の為転用せらる、輸送途中鹿児島沖及び基隆沖に於て敵の攻撃を受け一千余名海没者ありたる為之が補充として西部軍管区より人員及び資材を充足せり
二〇 二 二八	基隆上陸爾後同附近及び高雄洲下の警備に任じたり
	終戦後
	終戦に伴い部隊主力を台南洲岡山街附近に集結し台湾製糖会社所有地及附近官有地を借用して自活の為、農耕に従事せしむ 一部兵力を（二ヶ中隊）基隆炭鉱に派遣し出炭に協力せしむると共に台南市及高雄市の復旧作業に従事せしむ
	其の他特記事項
	現地除隊者は部隊に再編入の上内地帰還する如く台湾軍の指示ありたる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

も部隊の出発日次を早められしため、八二名の現地除隊者中、部隊出発迄に届出で再編入せる者僅か四名のみなり

昭二一一二七　復員完了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十二師団通信隊

年月日	概要
	部隊の状況
昭二〇・二・七	基隆港上陸
自 二・九	台南州新豊郡関廟庄関廟に位置し台南高雄州下師団防衛区域内の通信連絡に任ずると共に一部を以て高雄州鳳山郡埤巣庄深小附近の連地構築に任ず
至 終戦	終戦后は一部を以て、師団司令部と各部隊並連合国側接収委々員の通信に任ぜらると共に主力は台南州新化郡新化街小の五甲勢（台糖農協地）に在りつつ、現地自活（四〇甲歩）
	編成当時より終戦後に於ける部隊の行動経過の概要
昭一九・一二・二〇	編成完結　満州東寧城子溝
二三	台湾進駐の為城子溝出発
二〇・一・二五	釜山港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一三一　門司港出帆
二七　基隆港上陸
二九　台南州新豊郡関庙庄関庙
二一一三　内地帰還の爲　高雄港着
二八　高雄港出帆
二一四　潮賀に上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十二師団衛生隊

年月日	概要
	部隊の状況（終戦前後）
	高雄州鳳山郡仁武庄舊材林に於て作戦準備中終戦に至り爾後直ちに現地に於て現地自活作業に移り甘庶、野菜等、農耕作業中一月三日内地置送の目的を以て、高雄市に集結（二二〇全部）待船
二月八日	乗船
同 十四日	浦賀入港
同	上陸
同 十六日（八〇〇）	復員完結
	編成当時より終戦後に於ける部隊の行動至過の概要
昭二〇 二 二五	台南に於て編成完結
三 二八	作戦準備の目的を以って高雄州鳳山郡仁武庄舊材林に移駐
	終戦に到る
九	復員下命
二二	完結部隊以下 野砲兵第二十四連隊に転属（事実に於てはそのまま）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十師団司令部（田中隊）

（旧第五十師団兵器勤務隊）

年月日	概要
	編成行動の概要
昭一九 一〇 一六	軍令陸甲第一三三号により第五十師団兵器勤務隊編成下令、西部軍久留米戦車第十八連隊補充隊に於て編成
一〇 一七	編成完結
一一 二五	門司港出帆
一二 一	高雄港上陸
〃	第五十師団に編合せられ終始第五十師団長の指揮隷属下高雄州に在て兵器の修理並補給に任じ作戦準備に在りたり、
二〇 九 一七	第五十師団兵器勤務隊復員下令、
〃	隊長以下全員第五十師団司令部に転属す
	復員状況及残置部隊の概況
	第五十師団兵器勤務隊は
九 二二	高雄州湖州街に於て復員下令、隊長以下全員第五十師団司令部田中隊に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一一一	転属
三一六	第五十師団司令部田中隊復員下令 第五十師団田中隊大竹に於て復員完結 復員に伴う残置部隊無く全員復員完結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十師団司令部

年月日	概要
昭一八 三	部隊の編成行動の概要
	師団は台湾唯一の師団として編成完結
	台湾軍司令官に属し、歩三〇一、歩三〇二、歩三〇三、捜五〇、山砲五〇、工兵五〇、通信隊、輜重五〇を隷下に有し、台南市に位置し台北、新竹台中、台南、高雄を担任しありたり、
一九 一 三一	爾後逐次台湾軍の増強と共に防衛担任地区は縮少せられ、以降下淡水溪以東高雄州下の防衛を担任し、高雄州潮州郡萬巒庄萬巒に駐屯、終戦に到たりたり、
二一 一 一	復員状況及残置部隊の概況
	復員下令
	隷下部隊復員完結状況
	歩三〇一　三月十五日　於　大竹
	歩三〇二　三月十三日　〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	歩三ロ三 三月十三日 於大竹
	捜五ロ 三月十三日 〃
	山砲五ロ 三月十三日 〃
	工兵五ロ 三月十五日 〃
	通信隊 三月十六日 〃
	蹦重五ロ 三月十三日 〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

捜索第五十連隊

年月日	概要
	部隊の編成行動の概要
昭一九 五 三	軍令陸甲第四十七号第五十師団並独立混成第四十六旅団編成改正並第三百七十五次復帰（復員）下令せられ
五 三一	捜索第五十連隊の編成を完結せり
	爾後第五十師団長に隷属し
自 五 三一	台中州下を
至 九 一	
自 一九 九	台南州北部を
至 二〇 二 一二	
自 二 一二	高雄州潮州郡下の防衛警備を担任せり
至 八 一四	
二〇 七 五	特設警備第五三七大隊を昭和二十年五月七日戦車第二十五連隊の一中隊を配属せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	復員状況及残置部隊の概況
昭二一一一	復員状況
二一二四	台湾高雄州潮州潮州街四林駐屯地に於て復員下令せらる
〃	内地帰還の為駐屯地出発、
二二四	高雄市高雄倉庫に到着
三五	同地に於て乗船のため待期
三六	乗船
三七	高雄港出航
三一三	仪島に上陸
〃	復員完結せり
	軍訓令に依り居留民輸送援助の為連隊長、将校一、下士官一、兵二を残留せしむ
	残置部隊の概況
	残置部隊　なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才五十師団通信隊

年月日	概要
昭一九 五 二〇	編成の概要 昭和十九年軍令陸甲才四十七号に依り才五十師団通信隊臨時編成下令
五 三一	編成完結　編成地　台北、 編成　本部　有線一小隊　無線一小隊、器材班、指揮班 才五十師団
七 一〇	部隊は台南市に移駐
九 一二	以降高雄州下に於て陣地構築及台湾防衛戦斗
一二 二八	軍隊区分に依り左の通り編成 本部、有線二小隊　無線二小隊、器材班
八 一四	停戦詔書発布
九 七	高雄州潮州郡内埔庄に移駐
一一 一	復員下令
二 二四	内地帰還のため内埔出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	艦	摘要
昭二一三七	高雄出港	
三一三	大竹港上陸	
三一四	復員完結	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

輜重兵第五十連隊

年月日	概要
昭一七 八 三〇	編成行動の概要 台湾高雄州鳳山街に於て編成完結 （輜重兵第四十八連隊補充隊自動車二個中隊）
一九 四 一	台湾軍司令官の指揮下にあり 台湾軍は大本営に直属し戦斗序列を命ぜらる
五 三一	輜重兵第五十連隊編成完結（自動車二個中隊、於高雄州鳳山街）第五十師団長の指揮に属す
一〇 一五	自動車三個中隊編成
自 一七 八 三一 至 二〇 八 一四	台湾に於ける輸送に任じ終戦後は帰還軍需品の集中引渡輸送並内地帰還に際しての人員貨物の輸送後中国軍所要の輸送に任ず
二一 二 二四	駐屯地高雄州潮州郡萬巒庄赤山より帰還輸送の為高雄市に集結
三 六	主力二五〇名は高雄港に於て乗船
三 七	出帆
三 一四	宇品港上陸復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	輜隊長以下五名（将三、兵二） 居留民輔選輸送援助の為高雄に残置

(422)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第二四九連隊

年月日	概要
	駐屯地　台湾
	外地出発港湾　基隆
	外地出発年月日　昭和二一年二月二三日
	上陸地　大竹
	上陸年月日　昭和二一年三月一日
	部隊の編成行動の概要
昭一九 七 一二	歩兵第二四九連隊臨時編成下令
	編成地　島根県浜田市
八 八	門司港出発
八 一八	基隆港着第六十六師団隷下に入る
	爾後同師団隷下に在りて台湾防衛に任ず
〃	第一大隊及第四大隊　復員完結
〃	第二大隊　九九八名　基隆港にて帰還のため待機中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第三大隊　連隊長以下六八九名 邦人輸送援助のため兵事部に転属 残務整理　四名

(424)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六十六師団速射砲隊

年月日	概要
昭二〇 二	部隊は花蓮港地区より新竹州桃園地区に移駐し台北要塞構築作業に従事中終戦に至る
一〇	終戦后は同地附近の治安警備を担任
一九 七 二四	現地自活のため、同地出発花蓮港庁に至る　同地にありて、水害及戦災復旧作業並に現地自活農耕作業に従事す
七 二六	姫路歩兵第一一二連隊補充隊に於て、第六十六師団速射砲隊編成下令、編成完結
〃	姫路出発
〃	門司港到着
八 四	同港出帆敵潜艦の出没下台湾海峡中を難航し
八 一一	基隆上陸
〃	台湾軍の隷下に入る
〃 二七	基隆港出帆
〃	花蓮港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自一九 八 二七 至二〇 二 一八 昭二〇 三	商主として花蓮港地区に在りて（一部台東）台湾防衛業務に従事す。 花蓮港より新竹州桃園に移駐同地に在りて、引続き台湾防衛業務に従事終戦に至る 終戦直後は主として桃園附近の治安警備を担任、十月桃園出発花蓮港庁下に移動、水害及戦災復旧作業並に現地自活農耕作業に従事帰還に至る。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六十六師団通信隊

年月日	概要
	部隊の状況
	終戦前
	台北両部地区に於て主として新竹平地方向に対する対空挺防御施設の強化を図ると共に第六十六師団各地区隊に対する通信連絡に任し併せて熾烈なる砲爆下に於ける連絡の確保対戦車戦斗等を演練す
	終戦後
	終戦に伴い部隊主力を花蓮港庁瑞穂附近に集結し官有地を借用し自活のため農耕に従事せしむ
	一部兵力（約六〇名）を台南附近製糖会社に派遣し製糖作業を援助す
	編成以降部隊の行動経過の概要
昭一九八一	戦車第十九連隊に於て編成を完結し、台湾防衛のため
九五	花蓮港に上陸、同地附近の防衛に任し
二〇二中旬	台北地区に転進同地附近の防衛並に通信連絡に任し終戦に至る
二一三一	鹿児島上陸復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六十六師団輜重隊

年月日	概要
	部隊の現況 終戦前 台湾北部特に台北市周辺地区の輸送並に防備に任じ、日夜輸送業務並に築成施設の強化を図りその向上進捗奮戦敢斗の演練を為す 終戦後 終戦に伴い部隊軍需品の中国側への引渡を完了すると共に部隊は全員台東地区瑞穂村に移り附近、官有地、民有地を借用し自活のため農耕に従事す
	編成以降部隊の行動経過の概要
昭一九 七 二七	部隊は第六十六師団輜重隊として編成されるや直に花蓮港地区に移動を開始し本部・第二中隊は花蓮港銅門に第一中隊は台東日奈敷に在りて夫夫輸送業務並に陣地構築を開始し任務遂行中
二〇 二 二四	「イ」号演習計画に基き全部隊台北市周辺地区に移動を開始し本部は台

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二一　三　三

北市新莊那崎子坑にあるも各中隊主力は本部をはなれ連隊配屬となり輸送並に陣地構築実施中終戦に至る

終戦後は台東瑞穂村に移駐し自活のため復員の日迄の農耕に従事す

復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六十六師団迫撃砲隊

年月日	概要
	部隊の状況
	桃園地区警備隊歩兵二四九連隊直協砲兵として敵を汀線に於て撃滅すべく海岸陣地を構築、後方第二線及第三線の陣地及附属準備を完了せんとする時終戦となりたり
昭二四 八	終戦後は花蓮庁　玉里街に於て帰還は
二〇 一二 末	帰還予定のもとに長期計画にもとずく自活に入れり
二一 一 一	突然内地帰還命令下り
一 六	玉里出発
一 二六	蘇澳到着、当地にて二月二十四日迄待機
	基隆港出航内地帰還
昭一九 六 五	編成以降部隊の行動経過の概要
二〇 二 一八	花蓮港及台東地区防衛戦斗準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自二〇二一九 至三一	花蓮港より台北地区に移駐
自三二 至八一五	台北地区防衛戦斗準備
二一三四	内地復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六十六師団工兵隊

年月日	概要
	部隊の状況
	終戦前
	台湾北部（台北州新莊郡五股庄）に於て防衛配備に就くと共に海岸地区（台北州新莊郡林口庄大南湾宝斗厝）の陣地構築に任ずると共に戦訓による挺身斬戦戦斗を演練せり
	終戦後
	終戦に伴い主力は花蓮港庁玉里郡三笠村に於て同地官民地を借用し自活の為に農耕に従事す
	一部兵力（約一ヶ小隊）を中台鉱業株式会社に派遣し出炭に協力す
	編成以降部隊の行動経過の概要
昭一九 七 一三	軍令陸甲第八十三号に拠り
七 三一	台東庁台東郡台東街に於て編成完結を告す
八 一一	花蓮港地区に移駐し同地区の陣地構築に任じ一部（一ヶ小隊）を台東地区の陣地構築に任ぜしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二一	台北地区に移駐し同地区に於て防衛並に作戦準備に従事し終戦に至る
二二	主力
二八	
三四	一部内地復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第三百五聯隊

年月日	概要
昭一九 五 三	軍令陸甲第四七号に依り第五十師団並に独立混成第四六旅団臨時編成下令 之に基き歩兵第三百三聯隊及歩兵第三百五聯隊臨時編成下令 聯隊は独立混成第四六旅団に編入せらる
五 一〇	陸軍大佐　青木　功 歩兵第三百五聯隊長に補せらる
五 二〇	高雄州鳳山街歩兵第四七聯隊補充隊に於て編成業務を開始
六 五	聯隊本部　台東庁台東街に移駐 第三大隊主力（当時歩兵第四七聯隊補充隊第三大隊として花蓮港附近の防衛に任じあり）
六 一〇	花蓮港市より台東街に移駐 聯隊主力鳳山街より台東街附近に移駐を完了し聯隊の編成完結
六 一二	聯隊は台東廣下の防衛を担任す 聯隊編成完結式挙行
六 一四	聯隊長青木功護衛将校陸軍中尉佐藤栄一郎、旗手陸軍少尉武内正舞及護衛下士官二を隨之軍旗拝受のため台東街出発上京す

21 外

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六 二八　宮中正殿に於て軍旗拝受

七 二　台東聯隊本部（台東高等女学校）に於て軍旗奉戴式を挙行す

七 一二　軍令陸甲第八三号により第六六師団臨時編成下令並に第二百八八次復帰下令により聯隊は第六六師団隷下に入る

自 一〇 一二　台東地区に於て敵機動部隊の台湾来襲を逐ひ防衛戦斗に参加す

至 一〇 一五

二〇 一 一五　軍令陸甲第二陸亜密一一敵参動第一八号に依り独立歩兵大隊及び敵参動第一九号により特設警備隊重隊臨時動員並に特設警備中隊復帰下令

一 三〇　聯隊に於て独立歩兵第五百六四大隊特設警備第五百六一大隊に於て独立歩兵第五百六四大隊特設警備第五百六一大隊　第五百一三特設警備隊重隊並に第五百一四特設警備隊重隊の編成完結、特設警備第五百一中隊復帰完結

二 一〇　軍令陸甲第二九陸軍亜密九九敵参動第八四号に依り台東警備司令部編成下令

二 一五　聯隊に於て台東警備司令部の編成を完結す

〃　敵参動第三九号に依り臨時独立混成第百旅団編成下令

二 二〇　聯隊に於て独立歩兵第百二大隊独立混成第百旅団砲兵隊の一小隊同通信隊半部の編成完結

二 二二　軍令陸甲第二九号及陸軍機密第九九号並に敵参動第三百三九号に依り独立混成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	第百二旅団臨時編成並に臨時独立混成第百旅団復帰下令
二 二五	聯隊に於て独立歩兵第四百六五大隊独立歩兵第四百六七大隊、独立混成第百二旅団第二砲兵隊の編成完結同日独立歩兵第百二大隊臨時独立混成第百旅団砲兵隊の一小隊の復帰完結す
	之に基き歩兵第三百五聯隊第二大隊は独立歩兵第四百六五大隊となり光輝ある軍旗の下を離る
二 一六	敢作命甲第六六号に基き台北地区に移駐を命せらる
二 二〇	聯隊主力を以て二月二十日乃至二月二十四日の間に逐次台東出発
	台東　林辺道（行軍）　林辺　台北（若くは樹林）（汽車輸送）
	を樹林口附近に向い前進す
三 二	台北州樹林口地区に移駐を完了同地附近の防衛を担任す
三 六	台参動第三百二二号、敢参動第百一三号に依り第二大隊を編成下令
三 九	編成完結
六 二八	部隊創設記念式典を挙行す
八 六	陸軍大佐　青木功
	台南陸軍兵事部長台南地区司令官に補せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍中佐	兒玉勘一	
〃	三百五聯隊長に補せらる	八一五
大東亜戦争終結に関する詔書を拝す		八三〇
樹林口飛行場に於て聯隊軍旗奉還式を挙行		三一
軍旗奉還		
〃 十方面軍司令部に於て誘導将校陸軍中尉武内正拜誘導の上旗手陸軍少尉斉藤吉軍司令官に奉還す		二二七
復員		三一
〃		三三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

山砲兵第七十一連隊

年月日	概要
	駐屯地　台湾　台南県民雄
	外地出発港湾　基　隆
	外地出発年月日　昭和二十一年三月一日
	上陸地　似の島
	上陸年月日　昭和二十一年三月七日
	旅部隊の編成行動の概要
	陸亜機密第三の一号に拠り臨時編成令下令
昭二〇 一 一九	編成完結
一 二五	満洲国三江省佳木斯出発
一 三一	編成――連隊本部及三ケ大隊
	（一ケ大隊は大隊本部、三ケ中隊及大隊投列より成る、五三六名）
	連隊総人員　一八三六名
	総馬数　三〇五頭

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三〇 二 二九

台湾基隆上陸 嘉義附近（第三大隊は員林）に駐屯、同地附近の防衛に従事す

満洲出発後、第七十一師団長（師団長は第十方面軍司令官の隷下に在り）の隷下に在り

九 三二

終戦後

第七十一師団病馬廠の復員を担任す

復員状況及残置部隊の概況

復員は整斉に実施せられあり、支障なし

第三大隊（第八中隊主力欠）及旧第七十一師団病馬廠は二月二十八日より一八号に乗船、基隆を出帆せらるるも内地の入港地名不明なり

（ 人員 第三大隊 三五一名
旧病馬廠 九二名 ）

連隊本部（第八中隊主力及憲兵隊）及第一大隊は本日復員完結

（ 人員 連隊本部 一八二名 八中隊 七〇名
憲兵 三一名 第一大隊 四九四名 ）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	連隊長は出発直前基隆に残留 第三大隊（四九三名）は基隆に滞留しあり（既に出港せるものと思考す）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

工兵第七十一連隊

年月日	概要
	部隊の状況
	戦前
	主力（第一、第二、中隊）を以て台中州竹山郡、山地一帯の防衛築城、第三中隊を以て嘉義郡東石庄より築城材料の搬出に任すると共に熾烈なる空襲下敵進奇襲戦斗を演練す
	戦後
	斗六郡斗南街に集結し、治安維持に任すると共に現地自活のため製糖会社社有地八十五甲歩を借用耕作、一部を以て製糖会社復旧作業に従事す
	編成以降部隊の行動経過の概要
昭二〇 一 二二	陸亜機密第三四号により第七十一師団編成下令
一 二五	編成完結
一 二六	転用のため佳木斯出発
二 七	釜山出航

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

23 外

年月日	概要
二・二八	基隆港着
二・二二	防禦に従事、築城材料の撤出に任じ終戦に至る
三・三	復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第七十一師団通信隊

年月日	概要
	部隊の編成行動の概要
	出発地　朔洲住木斯
	編成　本部　有線二ケ小隊　無線一隊
	計　人　一五〇名　馬　二二頭
	渡台後　情勢に応じ二倍に増加す
	指揮　第十方面軍　第四十軍　第七十一師団
	隷属系統　第十方面軍　第七十一師団
	在台湾防衛間
	台南州斗南を中枢とし各種通信網を構成し防衛に従事す
	終戦後帰還迄斗六に位置し、現地自活に従事す
昭二一　三　七	復員は終戦以来指示せられある処に基き着々準備せる為円滑に実施し得殺置者なし
	復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

輜重兵第七十一連隊

年月日	概要
	部隊履歴の概要
昭一七 五 一三	第七十一師団輜重兵第七十一連隊を編成
五 二七	部隊は満洲商島省金巻に転進す
〃	同日より同地区警備すると共に夏は炎熱焼く他に冬は零下四十余度の地に日夜対「ソ」戦斗を訓練せり
一九 八	部隊は三江省佳木斯に移駐す、佳木斯には前師団 第十師団 南方転進後の一部残置の人員、自動車
二〇 一 一七	方号演習下令
一 三一	同地出発
二 二五	台南州大林着、
〃	同日より師団直轄地区防衛に従事すると共に終戦時迄部隊主力を以て宜田、及竹山地区の軍需品の洞堀への集積に日夜従事せると共に集成自動車中隊を編成し、該集積地区軍需品輸送に任し各々任務を執行しありたるも終戦命令に依り停止す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二一一三五

終戦後部隊は順田の一部兵器革選業務を担当し、十二月末完了す

復員下令せられ

田辺に於て復員を完結す

指揮隷属関係及其の変遷の概要

終戦と同時に制毒隊、兵器勤務隊、防疫給水部の三ケ部隊当輜重兵隊に転入す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp